

(様式第 9)



番 号  
平成 24 年 10 月 2 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ  
理事長 明石 勝

聖マリアンナ医科大学病院の業務報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	102人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	532人	11人	543人	看護補助者	125人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	18人	臨床検査技師	90人
薬剤師	73人	人	73人	作業療法士	8人	衛生検査技師	人
保健師	81人	人	81人	視能訓練士	9人	その他	13人
助産師	44人	1人	44.3人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	835人	49人	857.2人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	3人	1人	3.3人	栄養士	2人	その他の技術員	23人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	261人
管理栄養士	13人	人	13人	診療放射線技師	60人	その他の職員	6人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	903.78人	人	903.78人
1日当たり平均外来患者数	2,355.24人	人	2,355.24人
1日当たり平均調剤数			1,361 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法（平成24年9月申請）	取扱患者数	人
当該医療技術の概要	対象症例は、組織学的に浸潤性乳癌と診断された女性(病期Stage～ⅢA及びⅢB)で根治手術及び標準的な術前又は術後化学療法が施行された(対象によっては標準的的化学療法の省略を可とする)、エストロゲン受容体陽性かつHER2陰性で、再発リスクが中間以上である患者とする。本試験に登録された症例は、標準的術後ホルモン療法単独、又は標準的術後ホルモン療法とTS-1の併用療法のいずれかに割り付けられ、両群ともに標準的術後ホルモン療法5年間を実施、併用療法群は標準的術後ホルモン療法と同時にTS-1を1年間投与する。TS-1体表面積及びクレアチニンクリアランスによって規定された投与量を朝食後及び夕食後の1日2回、14日間連日経口投与し、その後7日間休薬する。これを1コースとして、投与開始から1年間、投与を繰り返す。		
医療技術名	イオン移動度分光測定式探知器による呼気分析（平成24年度申請予定）	取扱患者数	人
当該医療技術の概要	イオン移動度分光測定式探知器(Ion mobility spectrometer:IMS)はイオン化された荷電粒子を気体中に漂わせて弱電圧で移動させ、その間の気体分子との衝突などによる移動時間(drift time)の差によって分析する手法である。質量分析法と違い真空を必要としない簡便性、構造の簡単さ、測定は高感度でかつ容易である特徴を活かして、爆発物、毒物、麻薬検出、生物・化学兵器検出、またはエアロゾルの分析方法として活用されている。近年IMSを応用した呼気ガス分析装置Bioscoutが開発され、呼気中VOC分析による各種疾患の診断への応用が研究されている。WesthoffらはVOCのパターン解析から肺癌を感度・特異度と100%で診断し得たと報告している。またVOCの解析から腺癌、扁平上皮癌の鑑別も可能であったとも報告されている。本邦における有用性が確立されたならば、現在日本におけるがん死亡1位の肺癌のスクリーニングにおける有用性は計り知れないものであり、また組織型の鑑別が可能であれば肺癌の個別化医療に応用可能であるなど、将来の肺癌診療に必須な検査方法になると考えられる。		
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	203人	・膿疱性乾癬	4人
・多発性硬化症	81人	・広範脊柱管狭窄症	1,536人
・重症筋無力症	86人	・原発性胆汁性肝硬変	344人
・全身性エリテマトーデス	893人	・重症急性膵炎	17人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	66人
・再生不良性貧血	109人	・混合性結合組織病	99人
・サルコイドーシス	162人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	30人	・特発性間質性肺炎	24人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	360人	・網膜色素変性症	62人
・特発性血小板減少性紫斑病	106人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	66人	・肺動脈性肺高血圧症	111人
・潰瘍性大腸炎	210人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	25人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	142人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	61人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13人
・脊髄小脳変性症	107人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	68人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	77人
・悪性関節リウマチ	93人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	398人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	69人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	74人	・肥大型心筋症	140人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	30人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	65人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	109人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	49人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	28人	・黄色靭帯骨化症	24人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、 先端巨大症、下垂体機能低下症)	816人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・抗悪性腫瘍剤感受性検査 (H2404)	・
・超音波骨折治療法 (H2404)	・
・腹腔鏡下直腸脱手術 (H2404)	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離 (H2404)	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算 (H2204)	・
・センチネルリンパ節生検 (H2204)	・
・椎間板摘出術(後方摘出術) (H2210) 経皮的骨形成術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床病理検討会 年/3回 乳腺症例検討会 月1回、超音波症例検討会 月1回 腎移植カンファレンス 月1回程度(症例毎)
部 検 の 状 況	部検症例数 42例 / 部検率 6.5%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙参照				
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 34

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計 119

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
DNA相同組替え修復機構におけるBRCA1ユビキチンリガーゼ活性の役割	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	5,100,000	補委 文部科学省
HPV-B19ウイルススタンパクによる血液凝固系への影響の解明	武藤 真二	小児科学	600,000	補委 文部科学省
免疫複合体組織障害に対する、CXCケモカインのIn vivoにおける役割について	三井 浩	皮膚科学	1,400,000	補委 文部科学省
嚢胞状卵胞の形成メカニズム:単一卵胞培養系を用いた解析	奥津 由記	産婦人科学	1,300,000	補委 文部科学省
DNA損傷修復経路における合成致死性を応用した乳癌の化学療法に関する研究	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	6,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
親子の骨強化啓発活動の研究(骨粗鬆症の一次予防に骨量測定・栄養指導は必要か)	清水 弘之	整形外科	300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
微弱電流は筋損傷の修復を促進させるか ~免疫組織化学的分析~	藤谷 博人	スポーツ医学	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
脳梗塞の進行増悪における炎症性バイオマーカーの変化とスタチンの効果に関する研究	長谷川 泰弘	内科学(神経内科)	500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
H/H-MCAマイクロアレイを用いた食道癌治療法決定システムの開発	伊東 文生	内科学(消化器・肝臓内科)	700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
間欠的虚血ストレスの糖尿病性腎症進行への影響と脂肪酸結合蛋白の役割	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
早発閉経発症の分子機構—卵巣で発現するFMR1遺伝子の機能解析によるアプローチ	石塚 文平	産婦人科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ESD症例より得た胃洗浄液は早期胃がんのメチル化マーカー探索を可能にする	渡邊 嘉行	内科学(消化器・肝臓内科)	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
HTLV-1関連脊髄症(HAM)の脊髄再生治療法開発に関する研究	山野 嘉久	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
血管炎の新規な病態関連因子—ペプチドミクスによる網羅的探索と臨床的意義の基盤解析	尾崎 承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
プロテオミクスを用いた化学療法Naive患者の肝予備能障害メカニズムの解析	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ES・iPS細胞を用いた網膜神経前駆細胞の分化機構の解析	鈴木 登	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
オートファジーを介した新規軸索保護経路の解明	北岡 康史	眼科学	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
NSAID潰瘍のなりやすさは? :COX2 DNAメチル化へのピロリ菌感染の関与	安田 宏	内科学(消化器・肝臓内科)	1,700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
メラノサイト及びメラノーマ細胞におけるBMPとMitf、RETとの相互関係	川上 民裕	皮膚科学	2,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
スクレオフォスミン(NPM)の解析による肝細胞癌発癌機構及びその治療法の解明	榎本 武治	外科学(消化器・一般外科)	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
メカニカルストレスに応答する軟骨細胞核酸修復酵素活性調節機構と軟骨変性機序の解析	遊道 和雄	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
効率の良い卵巣組織凍結・移植法の確立を目指した研究—若年女性癌患者のために	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	2,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
食道閉鎖モデルマウスにおける責任遺伝子発現様式の三次元的解析に関する研究	佐藤 英章	外科(小児外科)	2,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
羊胎仔尿路閉塞後の腎・膀胱両機能温存型膀胱—羊水腔シャントチューブの開発	北川 博昭	外科(小児外科)	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
高ブドウ糖環境下に於ける神経細胞・表皮細胞・線維芽細胞の機能的・形態学的解析	松崎 恭一	形成外科学	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
敗血症に伴う重症末梢神経炎の発生機序の解明と活性化第X因子阻害薬の保護効果の検討	日野 博文	麻酔学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
in vitro翻訳後修飾導入による新規自己抗体同定法の確立	加藤 智啓	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	1,800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脂肪酸結合蛋白の発現増強による腎疾患治療薬としての可能性	横山 健	内科学(腎臓・高血圧内科)	1,900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
難治性卵巣癌におけるPOU6F1を介した細胞増殖を抑制する新たな治療法の開発	吉岡 範人	産婦人科学(婦人科)	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
片側内耳破壊ラットの小脳片葉プロテオーム解析	深澤 雅彦	耳鼻咽喉科学	1,400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
角膜輪部における角膜幹細胞と角膜神経の関与 — ニューロトロフィンに着目して—	上野 宏樹	眼科学	1,600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
SAM系新規緑内障モデルにおける神経特異性上皮増殖因子制御と軸索伸展機構の解明	宗正 泰成	眼科学	1,500,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	鈴木 登	内科学(U・膠・ア内科)	10,000,000	補委 厚生労働省
CKD進展予防のための特定健診と特定保健指導のあり方に関する研究	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	4,850,000	補委 厚生労働省

計 34

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Urology	asymptomatic hematuria, gemcitabine-cisplatin chemotherapy, kidney transplantation, reduced immunosuppression, urothelial cancer	Nakazawa R	腎泌尿器外科学
Int.J.of Clinical Pharmacology and Therapeutics	Highly activated oral bioavailability of tacrolimus on coadministration of oral voriconazole	Inoue Yasuyuki	内科学(血液・腫瘍内科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Female Gender Is an Independent Prognostic Factor in Non-small-cell Lung Cancer: A Meta-analysis	Haruhiko Nakamura	外科学(呼吸器外科)
呼吸	気管支腔内超音波断層法	栗本典昭	外科学(呼吸器外科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Coil embolization for pulmonary arteriovenous malformation as an organsparing therapy:outcome of long-term follow-up	Koji Ando	外科学(呼吸器外科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Female Gender Is an Independent Prognostic Factor in Non-small-cell Lung Cancer: A Meta-analysis	Haruhiko Nakamura	外科学(呼吸器外科)
日本呼吸器学会雑誌	EBUS-TBNA後に生じた縦隔炎(縦隔リンパ節炎)の1例	栗本典昭	外科学(呼吸器外科)
呼吸	気管支腔内超音波断層法	栗本典昭	外科学(呼吸器外科)
胸部外科	まい・てくにつく 剥離による肺実質損傷部の修復	中村 治彦	外科学(呼吸器外科)
日本気管食道科学会報	気管腺様嚢胞癌	中村 治彦	外科学(呼吸器外科)
小児がん	巨大先天性色素性母斑症に合併した横紋筋肉腫の1例	古田繁行	外科学(小児外科)
小児科	【小児の固形腫瘍-診断・治療の進歩-】横紋筋肉腫	古田繁行	外科学(小児外科)
日本外科学(小児外科)学会雑誌	移動性精巣110例の検討	新開統子	外科学(小児外科)
Journal of Pediatric Surgery	Tracheoinnominate artery fistula after laryngotracheal separation : prevention and management	Hideaki Sato	外科学(小児外科)
日本腹部救急医学会雑誌	当院における膿瘍形成性虫垂炎に対する治療の現況	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
MEDICAL TORCHI	術後小腸皮膚瘻に対する経皮的膿瘍ドレナージチューブからのフィブリン接着剤瘻孔充填法の1治療例	片山真史	外科学(消化器・一般外科)
日本外科連合学会誌	トピックス 胃癌に対する腹腔鏡下胃切除の予後	福永哲	外科学(消化器・一般外科)
J Hepatobiliary Pancreat Sci	-TOPICS- Control of the inflow and outflow system during liver resection	Takehito Otsubo	外科学(消化器・一般外科)
The Journal of Cardiovascular Surgery	Proteomic analyses of aortic wall in patients with abdominal aortic aneurysm	T.Ando	外科学(心臓血管外科)
日本外科学(心臓血管外科)学会雑誌	十二指腸を原発とした右房悪性リンパ腫に対して外科的腫瘍切除を施行した1例	千葉 清	外科学(心臓血管外科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Rupture of Pseudo Aneurysm of the Abdominal Aorta in a Patient with Human Immunodeficiency Virus Infection	Takashi Ando	外科学(心臓血管外科)
日本外科学(心臓血管外科)学会雑誌	十二指腸を原発とした右房悪性リンパ腫に対して外科的腫瘍切除を施行した1例	千葉 清	外科学(心臓血管外科)
脈管学	成人大動脈縮窄症に対するパッチ拡大術3症例の中期遠隔成績	近田 正英	外科学(心臓血管外科)
最新 救急画像診断—読み方・考え方・活かし方—	突発性食道破裂	西巻 博	外科学(心臓血管外科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Rupture of Pseudo Aneurysm of the Abdominal Aorta in a Patient with Human Immunodeficiency Virus Infection	Takashi Ando	外科学(心臓血管外科)
Medical Tribune	リユースへの切り替えで医療費・廃棄物を削減	西川 徹	外科学(乳腺・内分泌外科)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床細胞学会雑誌	痛みを伴い急速増大した原発性乳腺血管肉腫の1例	土屋恭子	外科学(乳腺・内分泌外科)
乳癌の臨床	豊胸術後インプラント内部に画像上乳頭状病変を認め乳房埋入異物摘出術を施行した無菌性膿瘍の1例	川本 久紀	外科学(乳腺・内分泌外科)
乳癌の臨床	当院での高齢者乳癌における乳房温存術に対する治療と問題点	川本久紀	外科学(乳腺・内分泌外科)
あたらしい眼科	プロスタグランジン関連薬のウサギ角膜上皮細胞に対する影響	井上順	眼科学
眼科	糖尿病黄斑浮腫への硝子体手術	高木均	眼科学
臨床眼科	Dynamic contour tonometerを用いたソフトコンタクトレンズ上の眼圧測定	松澤垂紀子	眼科学
Invest Ophthalmol Vis Sci	Dependence of corneal stem/progenitor cells on ocular surface innervation	Ueno H	眼科学
日本救急医学会雑誌	来院時血液マーカーによる重症救急患者の予後予測	吉田徹	救急医学
日本集中治療医学会学会雑誌	早期の高トラフ濃度達成を目標としたテイコプラニン初期投与法と安全性の検討	柳井真知	救急医学
救急医学	熱傷に伴うショックへの対応	尾崎将之	救急医学
クリティカルケアの実践力を磨く! 重症集中ケア	人工呼吸器初期設定	尾崎将之	救急医学
救急医学	わが国におけるMET/RRTトレーニング	児玉貴光	救急医学
日形会誌	テブレノンが培養表皮細胞に及ぼす影響についての解析	岩本承豪	形成外科学
日形会誌	重層化培養シートの作製における多血小板血漿の有用性	篠田令奈	形成外科学
J Artificial Organs	Improvement of hindlimb paralysis with traumatic spinal cord injury of rats by grafting normal human keratinocyte - New strategy of cell therapy for nerve regeneration-	Hajime Inoue	形成外科学
Endocrine Journal	Gonadotropins up-regulate the expression of enolase 2, but not enolase 1, in the rat ovary.	Yoshioka N	産婦人科学
Reprod Toxicol	Acute reproductive toxicity of 3,3'-iminodipropionitrile in female rats.	Takahashi N	産婦人科学
Human Cell	卵巣癌細胞におけるside populationの臨床的意義 (Clinical significance of side population in ovarian cancer cells)(英語)	Shinji Hosonuma	産婦人科学
移植	角膜移植,臓器と組織の調達	佐々木秀郎	腎泌尿器外科学
日本泌尿器科学会雑誌	敗血症を契機に発見され腎摘出に至った腎マラコブラキアの1例	北島和樹	腎泌尿器外科学
腎移植・血管外科	脳死下および心停止下献腎提供時のドナー管理	力石辰也	腎泌尿器外科学
Mod Rheumatol	Incidence and predictive factors for malignancies in 136 Japanese patients with dermatomyositis, polymyositis and clinically amyopathic dermatomyositis	Azuma K.	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Seminars in respiratory and critical care medicine	ANCA-associated lung fibrosis	Yamada H.	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis and rheumatism	AC13, a C-terminal fragment of apolipoprotein A-1, is a potent diagnostic pathogenic peptide for microscopic polyangiitis.	Takakuwa Y	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
The Journal of Rheumatology	Long-term survival and associated risk factors in patients with adult-onset idiopathic inflammatory myopathies and amyopathic dermatomyositis: experience in a single	Yamasaki Y.	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Arthritis & Rheumatism	Endogenous prostaglandin E2 inhibits aberrant overgrowth of rheumatoid synovial tissue and the development of osteoclast activity through EP4 receptor	Toshiko Shibata-Nozaki	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Expert Opin. Biol. Ther.	Anti-endothelial cell antibodies (AECA) in patients with systemic vasculitis: our research using proteomics.	Rie Karasawa	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Cellular Immunology	Advantage of higher-avidity CTL specific for TAX against human T-lymphotropic virus-1 infected cells and tumors.	Takako Kitazono	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
J. St. Marianna Univ.	A patient with systemic lupus erythematosus presenting with exuberant callus formation after autologous bone grafting.	R Karasawa	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
International Immunopharmacology	Regulation of antigen-specific DTL and TH1 cell activation through 5-Hydroxytryptamine 2A receptor.	Makoto Inoue	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Mod Rheumatol	Cutaneous polyarteritis nodosa associated with HLA-B39-positive undifferentiated spondyloarthritis in a Japanese patient.	Nakano H	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
臨床リウマチ	穿孔によって判明した小腸原発性diffuse large B cell lymphomaを合併したSjogren症候群の1例	井上誠	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Journal of Biomaterials and Nanobiotechnology (JBNB)	Articular cartilage, self-assembly, Tissue Engineering, Chondrocyte	Yudoh K	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Mod Rheumatol	Severity-based treatment for Japanese patients with MPO-ANCA-associated vasculitis:the JMAAV study	Shoichi Ozaki	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Neuroscience Letters	Establishment of retinal progenitor cell clones by transfection with Pax6 gene of mouse induced pluripotent stem (iPS) cells	Suzuki N	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Bronchol Intervent Pulmonol	Airway Measurements in Tracheobronchial Stenosis Using Endobronchial Ultrasonography During Stenting	Seiichi Nobuyama	内科学(呼吸器・感染症内科)
Journal of Bronchology and Interventional Pulmonology	Comparison of 21-gauge and 22-gauge needles for endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration of mediastinal and hilar lymph nodes	Junko Saji	内科学(呼吸器・感染症内科)
CLINICAL & EXPERIMENTAL ALLERGY	Urinary concentrations of 15-epimer of lipoxin A4 are lower in patients with aspirin-intolerant compared with aspirin-tolerant asthma	H Yamaguchi	内科学(呼吸器・感染症内科)
American Journal of Critical Care Medicine	Assessing the Site of Maximal Obstruction in the Trachea Using Lateral Pressure Measurement during Bronchoscopy	Hiroki Nishine	内科学(呼吸器・感染症内科)
医学あゆみ	COPDのバルブによる内視鏡的肺容量減少術	宮澤輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
カレントセラピー	EBUSがもたらす肺癌診断の進歩	井上健男	内科学(呼吸器・感染症内科)
医学のあゆみ	癌・腫瘍学 肺癌呼気分析による診断	半田寛	内科学(呼吸器・感染症内科)
Circ Cardiovasc Imaging	Mechanisms of Acute Mitral Regurgitation in Patients With Takotsubo Cardiomyopathy : An Echocardiographic Study	Masaki Izumo	内科学(循環器内科)
Asua-Pacific Cardiology	Clinical and Diagnostic Aspects of Takotsubo Cardiomyopathy.	Yoshihiro Akashi	内科学(循環器内科)
Circulation Journal	The T Wave Inversion Score Is Useful for Evaluating the Time-Course of Acute Pulmonary Embolism.	Tomoyuki Kunishima	内科学(循環器内科)
General Medicine	A Comparative Study of Health Checkup Results between Early and Late Elderly	Keito Torikai	内科学(循環器内科)
日本臨床生理学会雑誌	Significance of Annual Health Checkups in the Very Elderly Population	Yuko Tohyo	内科学(循環器内科)
Ann Nucl Med	Myocardial washout rate of technetium-99m-sestamibi in the chronic phase predicts myocardial damage in patients with previous myocardial infarction	Kohei Ashikaga	内科学(循環器内科)
J Echocardiography	Global longitudinal strain by two-dimensional speckle tracking imaging predicts exercise capacity in patients with chronic heart failure	Seisyou Kou	内科学(循環器内科)
日本臨床生理学会雑誌	Prevalence of Sleep Disordered Breathing in De Novo Systolic Heart Failure Patients in different Clinical Scenario	Hiromitsu Sekizuka	内科学(循環器内科)
J AM ACAD DERMATOL	silent myocardial infarction subsequent to cutaneous polyarteritis nodosa in a patient with positive lupus anticoagulant	Tamihiro Kawakami	皮膚科学
日本臨床生理学会雑誌	Development of an electrocardiogram transmission system using two-dimensional QR code.	Naoki Matsumoto	内科学(循環器内科)
J. St. Marianna Univ.	Antenatal Glucocorticoid Administration Attenuates Rho A / Rho Kinase Associated with Pulmonary Hypertension in Preterm Neonatal Fetal Lungs	Naoki Matsumoto	内科学(循環器内科)
肝臓	B型急性肝炎の経過予測におけるHBs抗原定量の有用性	高橋秀明	内科学(消化器・肝臓内科)
PLoS One	Frequent alteration of MLL3 frameshift mutations in microsatellite deficient colorectal cancer	Watanabe Yoshiyuki	内科学(消化器・肝臓内科)
J Pharmacol Sci	Comparison of the effects of omeprazole and rabeprazole on ticlopidine metabolism in vitro	Kinoshita Yuichi	内科学(消化器・肝臓内科)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
膵臓	分枝型膵管内乳頭粘液性腫瘍と慢性膵炎に合併した groove pancreatic carcinomaの1例	中原一有	内科学(消化器・肝臓内科)
Digestion	Gastric wash-based molecular testing for antibiotic resistance in helicobacter pylori	Satoshi Baba	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓	肝細胞癌と画像上鑑別が困難であった甲状腺濾胞癌肝転移の1例	服部伸洋	内科学(消化器・肝臓内科)
Gastroenterological Endoscopy	有効長200cmのダブルバルーン内視鏡単独で結石除去し得たRoux-en-Y法術後総胆管結石の1例	足立清太郎	内科学(消化器・肝臓内科)
脳卒中	急性期脳血管障害患者の下肢深部静脈血栓症における臥位膝窩静脈計測の意義	清水高弘	内科学(神経内科)
脳卒中	急性期炎症性バイオマーカーと脳梗塞臨床亜病型との関連	下邨華菜	内科学(神経内科)
脳卒中	症候性または無症候性ラクナ梗塞を有する高血圧患者の心血管イベント発症リスク層別化における24時間自由行動下血圧測定の意義	白石 眞	内科学(神経内科)
内科学(神経内科)	ジストニア患者の治療満足度に対するアンケート調査	堀内正浩	内科学(神経内科)
神経治療学	【脳卒中のトータルケア-発症予防から地域連携パスまで-】血栓溶解療法の問題点と遠隔医療支援の可能性	長谷川泰弘	内科学(神経内科)
Diabetes Care	Clinical Significance of Urinary Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein in Diabetic Nephropathy of Type 2 Diabetic	Kamijo-Ikemori A	内科学(腎臓・高血圧内科)
Am J Pathol	Renal Liver-Type Fatty Acid Binding Protein (L-FABP) Attenuates Acute Kidney Injury in Aristolochic Acid Nephrotoxicity	Matsui K	内科学(腎臓・高血圧内科)
Clin Exp Nephrol	Clinical significance of tubular and podocyte biomarkers in acute kidney injury	Matsui K	内科学(腎臓・高血圧内科)
Nephrology	Roles of human liver type fatty acid binding protein in kidney disease clarified using hL-FABP chromosomal transgenic mice	Kamijo-Ikemori A	内科学(腎臓・高血圧内科)
Clin Exp Nephrol	Kidney function, albuminuria and cardiovascular risk factors in post-operative living kidney donors: a single-center, cross-sectional study	Yazawa M	内科学(腎臓・高血圧内科)
Advances in Peritoneal Dialysis	Prothrombin Fragment 1+2(F1-2) in Effluent Is a Useful Marker for Peritoneal Permeability in Peritoneal Dialysis Patients Using Neutral Dialysate	Sakurada T	内科学(腎臓・高血圧内科)
Circulation Journal	Usefulness of Urinary Biomarkers in Early Detection of Acute Kidney Injury After Cardiac Surgery in Adults	松井勝臣	内科学(腎臓・高血圧内科)
Clin Exp Nephrol	Kidney function, albuminuria and cardiovascular risk factors in post-operative living kidney donors: a single-center, cross-sectional study.	谷澤雅彦	内科学(腎臓・高血圧内科)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
移植	腎移植後レシピエントの心血管合併症リスク因子の管理における内科医介入の影響.	松井勝臣	内科学(腎臓・高血圧内科)
日本内分泌学会雑誌	サブクリニカルクッシング症候群の診断基準・治療方針に関する現状と提言	方波見卓行	内科学(代謝・内分泌内科)
糖尿病	糖尿病性多発神経障害の病期分類における心拍変動スペクトル解析の検討	小林秀俊	内科学(代謝・内分泌内科)
Obesity Research and Clinical Practice	Intrahepatic lipid content is linked to insulin resistance in obese subjects	Sada Y	内科学(代謝・内分泌内科)
Journal of Diabetes Investigation	Comparison of daily glucose excursion by continuous glucose monitoring between type 2 diabetic patients receiving biphasic insulin aspart 30 or biphasic human insulin 30	Ohta A	内科学(代謝・内分泌内科)
PLoS One	Association of New Loci Identified in European Genome-Wide Association Studies with Susceptibility to Type 2 Diabetes in the Japanese	Ohshige Toshihiko	内科学(代謝・内分泌内科)
Diabetologia	Genetic variants at CDC123/CAMK1D and SPRY2 are associated with susceptibility to type 2 diabetes in the Japanese population	Imamura M	内科学(代謝・内分泌内科)
Japanese Journal of Radiology	Correlations between computed tomography findings and clinical manifestations of Streptococcus pneumoniae pneumonia	Kunihiro Yagiihashi	放射線医学
Japanese Journal of Radiology	Clinical efficacy and value of redistributed subclavian arterial infusion chemotherapy for locally advanced breast cancer	Hiroshi Shimamoto	放射線医学
日本乳癌検診学会誌	マンモグラフィ検診遠隔診断について	中島康雄	放射線医学
日本乳癌検診学会誌	市検診を契機に見つかったDCIS in radial scarの一例	岡本聡子	放射線医学
日本乳癌検診学会誌	PEM(Positron Emission Mammography)Fiex Sol o2の使用経験	印牧義英	放射線医学
American Journal of Radiology	Vascular Enhancement and Image Quality of CT Venography: Comparison of Standard and Low Kilovoltage Settings	Atsuko Fujikawa	放射線医学
Cancer Reseach	HERC2 interacts with Claspin and regulates DNA origin firing and replication fork progression.	Izawa N	臨床腫瘍学
Jpn J Clin Oncol	Past and Present Achievements,and Future Direction of the Gastrointestinal Oncology Study Group(GIOSG),a Division of Japan Clinical Oncology Group(JCOG).	Boku N	臨床腫瘍学
Cancer Sci	Nucleostemin and TWIST as predictive markers for recurrence after neoadjuvant chemotherapy for esophageal	Nakajima TE	臨床腫瘍学
Hand Surgery	Ultrasonographic findings in cubital tunnel syndrome caused by a cubitus varus deformity	Hiroyuki Shimizu	整形外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本人工関節学会誌	片側人工膝関節置換術後の患者に対し対側TKAを施行した症例のDVT発生率の検討	大沼弘幸	整形外科
日本整形外科学会スポーツ医学雑誌	スポーツ選手の腰椎分離症に対するPedicicle screw hook rod法を用いた分離部修復術	小島 敦	整形外科
J Appl Physiol	Absence of heat shock transcription factor 1 retards the regrowth of atrophied soleus muscle in mice.	kazuyuki yasuhara	整形外科

計 119

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 幕内 晴朗		
管理担当者氏名	総務部長 松本敏男、人事部長 赤坂兼啓、事務部長 細谷実知博 薬剤部長 増原慶壮、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 栗原泰之 看護部長 高橋恵、栄養部長 川島由起子		
		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部、薬剤部 看護部、臨床検査部、画像センター メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 幕内 晴朗
閲覧担当者氏名	事務部長 細谷 実知博
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2件
閲覧者別	医師	延	1件
	歯科医師	延	1件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	1件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	78.0 %	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠 A: 紹介患者の数			28,357人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			14,757人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			4,203人
D: 初診の患者の数			45,937人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理指針 平成12年4月1日策定 平成15年9月29日改正 平成16年3月1日改正 平成20年2月1日改正 平成21年1月1日改正 平成22年4月1日改正 平成23年5月1日改正 平成24年4月1日改正</li><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本理念</li><li>2. 用語の定義</li><li>3. 委員会、組織</li><li>4. マニュアルの整備</li><li>5. 職員研修</li><li>6. 報告制度</li><li>7. インシデント・アクシデントの診療記録記載</li><li>8. 医療事故等発生時の対応</li><li>9. 患者からの相談への対応</li><li>10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有</li><li>11. 指針の改訂</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全対策委員会（平成23年度 年14回開催 内訳：定例11回 臨時3回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者 医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む 医師12名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、事務職1名で 構成</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全に係る事項の審議<ul style="list-style-type: none"><li>* 医療安全管理に係る基本方針</li><li>* リスクマネージャー会議・医療安全管理室からの報告事項に関すること</li><li>* 医療安全対策の立案・実施に関すること</li><li>* 医療安全推進に関すること</li></ul></li><li>2) 事故発生時の対応<ul style="list-style-type: none"><li>* 事故報告書（アクシデント・合併症・バリエーション報告書）の確認</li><li>* 患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討</li></ul></li><li>3) 医療安全管理室への改善策等の提言</li></ol></li></ul></li><li>2. リスクマネージャー会議（年12回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含む リスクマネージャー（医師40人、看護師34人、技術職17人、事務員10人）</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 当院のインシデント・アクシデント事例の共有</li><li>2) 事故の発生要因分析と対策の検討とその評価</li><li>3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価</li></ol></li></ul></li></ol>	

## ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成23年度 54回

## 1) 全職員対象

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳					参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	病院職員以外	
第1回 自動体外除細動器 (AEDについて)	本講演：4/19, 4/27 ビデオ講演： 5/16, 5/20(2回) ランチビデオ 5/19 ビデオ貸出： 5/23～6/10	小山 泰明 先生(当院救命 救急センター 医師)	全職員	265	770	317	291	52	1,695 人
第4回 医療安全の日	本講演：11/30 ビデオ講演： 12/9,12/14 ランチビデオ 講演：12/20 ビデオ貸出： 12/21～1/23	座長： 別府 諸兄副 院長 北川博昭先生 (当院医療安 全管理室長) 箕輪良行先生 (当院救命救 急センター長) 田中 逸先生 (事故調査委 員会委員長)	全職員	324	573	316	339	99	1,651 人

		相沢健男先生 (当時・ 医療課長)							
第5回 重大医療事故発生時 の対応	本講演:1/30 ビデオ講演: 2/14,15,20 ランチビデオ 講演:2/23 ビデオ貸出: 2/24~3/19	医療安全 管理室	全職員	378	672	308	303	55	1,716 人
KYT 研修会 (基礎編)	5/24,6/14, 6/30,11/29, 2/24	竜 トシ子 (当院医療安 全管理者)	全職員	7	63	1	7		78人
KYT 研修会 (実践編)	9/27,12/13	竜 トシ子 (当院医療安 全管理者)	全職員		7		1		8人
e-ラーニング研修 重大医療事故発生時 の対応	9/1~9/30	医療安全 管理室	全職員						2,302 人

合計 7,450 人

※ 平成24年3月現在 受講対象人数 2,409人 1回あたり受講回数 3.09回

## 2) 対象者限定

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳					参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	病院職員以外	
医療安全研修	4/8	竜トシ子(当院医療安全管理者)	研修医	55					55人
安全な与薬	5/16,5/17 5/19,5/20	井上 浩子(当院医療安全管理室 師長)	新人 看護師		159				159人
医療 KYT 研修	6/2	竜 トシ子(当院医療安全管理者)	副師長		31				31人
第1回 中途入職者研修	7/12,7/15	竜 トシ子(当院医療安全管理者)	中途 入職者	4	4	4	16		28人
新 RM 対象研修	6/2,6/15	竜 トシ子(当院医療安全管理者)	新リスク マネージャー	13	2	1	3		19人
救命処置の院内研修	9/15,9/27, 10/20,10/25, 11/8,11/10, 12/15,12/20, 1/16,1/17	井上 浩子(当院医療安全管理室師長) 藤野 智子(当院看護部師長) 渡辺 真貴(当院看護部副師	医師・看護師を除く 全有資格者 (BLS、 ICLS、 ER-COR			100			158人

		長) 後藤 淳子 (当 院看護部主任)  他 9 名	E 受講者 は対象 外)						
第 3 回持続硬膜外カ テーテル挿入時の術 後下肢状態観察につ いて	本講演:9/30 ビデオ講演: 10/17,20 ランチビデオ 講演:10/18 ビデオ貸出: 10/24~11/17	西木戸 修先生 (当院麻酔科 医師)	医師 看護師	261	698	3			962 人
第 2 回中途入職者 研修	11/17, 12/6	竜 トシ子 (当 院医療安全管理 者) 井上 浩子 (当 院医療安全管理 室師長	中途 入職者	8	4		12		24 人
第 3 回中途入職者 研修	2/17,2/22	井上 浩子 (当 院医療安全管理 室 師長)	中途 入職者	2	6		11		19 人
RM 対象研修	3/17 A.M. P.M. 各 1 回	長島 久先生 (信州大学医学 部附属病院脳血 管内治療センタ ー長) 戸田 由 美子先生 (東名 厚木病院医療安 全管理室長) 花井 恵子先生 (北里大学東病 院看護部長)	全リスク マネー ジャー	30	29	14	12		85 人



KYT 研修 (部署別)	3/22	竜トシ子 (当院 医療安全管理 者)	本館 8 階 東病棟		12				12 人
輸液施行中の管理 (e-ラーニング)	12/12~1/12		医師 看護師	/	/	/	/	/	1,484 人
平成 22 年度 6 点未 満者研修 (e-ラーニング)	5/13~6/13		平成 22 年度 6 点 未満者	/	/	/	/	/	716 人
平成 22 年度 6 点未 満者再研修 (e-ラーニング)	7/25~8/25		平成 22 年度 6 点 未満者	/	/	/	/	/	86 人
平成 22 年度 6 点未 満者再々研修	10/15~11/12		平成 22 年度 6 点 未満者	/	/	/	/	/	14 人

合計 3,852 人

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・ 医療機関内における事故報告等の整備

(有・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容

1) 医療安全推進週間の強化

11月25日を「医療安全の日」と定め、11月30日に過去の事例を風化させることなく、医療安全に係る組織風土醸成を目的としてシンポジウムを開催した。

2) RRS (Rapid Response System) 対象を全部署とした。(平成24年4月1日)

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況

(有) (1名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況

(有) (8名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任10名（看護師2名、事務職員8名） 兼任 8名（医師5名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名）</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>*医療安全管理指針の周知徹底</li> <li>*インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理</li> <li>*各部門のリスクマネージャーとの連絡調整</li> <li>*医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更新</li> <li>*各部門の安全活動状況の把握（巡視）と指導</li> </ul> </li> <li>2) 事故調査に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>*事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価</li> </ul> </li> <li>3) 安全教育・啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>*安全管理に関する教育・研修の企画、運営</li> <li>*至急回報、e-ラーニング研修の配信</li> <li>*安全管理に関する会議の運営</li> </ul> </li> <li>4) 患者相談業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>*苦情、相談の受付及び処理</li> <li>*苦情、相談等に係る調査及び報告</li> <li>*患者相談窓口の管理運営</li> <li>*苦情、相談事案の改善、活用</li> <li>*メディエーターに関すること</li> </ul> </li> <li>5) 紛争処理業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>*医療紛争の処理</li> <li>*医療の法務・訴訟</li> <li>*証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応</li> <li>*医療事故、紛争の調査</li> </ul> </li> <li>6) 院内警備（保安）に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 11回
<p>・活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は微生物学教授で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理部、事務（施設、管理、人事など）の職員で構成されている。活動の主な内容は以下の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関すること。2. 院内感染の発生の要因及び対応に関すること。3. 滅菌及び消毒に関すること。4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関すること。5. 原因微生物別感染防止対策に関すること。6. 用途別、菌種別消毒薬に関すること。7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関すること。8. 感染症報告書に関すること。9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関すること。10. 院内感染防止のための検査に関すること。11. 環境微生物検査に関すること。12. 感染性廃棄物の適正処理に関すること。13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関すること。14. 病院長からの諮問事項に関すること。15. その他、感染防止に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 約30回
<p>・研修の主な内容：全職員対象の研修会を毎年2回定例で開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、初期臨床研修医を対象とした講習、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間30回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価</li> <li>2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価</li> <li>3. 感染防止の推進に関する事項</li> </ol> <p>※平成23年度研修会（全職員対象）内容：「感染治療の原則」、「コリスチン使用例の症例報告」「多剤耐性菌感染症に対する感染予防対策について-ESBL産生菌を中心に-」（感染担当者意見交換会）、「感染症対策 up to date-薬剤耐性菌制御から被災地での対策まで-」（感染症学術講演会）</p> <p>（対象者別で行った講演会）「院内感染防止対策」、「標準予防策について」、「静脈注射」、「SSIを予防するために」、「血流感染予防策」、「洗浄・消毒の講義」、「ノロウイルス対策」</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。</li> <li>2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。</li> <li>3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。</li> <li>4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。</li> </ol> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗MRSA薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）</li> <li>2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。</li> <li>3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施</li> <li>4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知</li> <li>5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行</li> </ol>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置 (薬剤部)

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年30回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：平成23年度 医療安全職員研修会 医療安全における薬剤取り扱いの注意点について 新人看護職員技術研修 安全な与薬（薬剤師の立場から） 薬剤師による病棟研修会（化学療法について、疼痛管理について、採用薬の説明など）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 業務の主な内容： 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施 その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 薬剤部内に医薬品情報室を設置し、製薬会社、DSU、PMDA、海外文献、学会誌、大学図書館より最新情報を入手し、情報提供を行っている。 また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底している。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 2010年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1病棟1名の、病棟担当薬剤師の配置が完了した 医師看護師等の医薬品に対する疑問への情報提供を短時間で行う 情報提供をカンファレンスや病棟会で密に行う</li> </ul> 2011年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤部以外で抗がん剤を調製する場合の手順作成</li> <li>・ MUE (Medication Use Evaluation) の実施</li> </ul> 2012年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤部から発信する医薬品に係る情報が、職員全員に周知できているか確認する為に、閲覧者リストの提出を各部署に義務付けた。</li> </ul> </li> </ul>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 数 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ 人工呼吸器、ポンプなど全部署で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修会を年1回行っている。人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で1年を通し行っている。</li><li>・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの移動時にCHDF、PCPSなどの操作説明を行っている。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ○・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：</li><li>・ 中央管理機器（人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等）な使用後の終業点検と年1回の定期点検を行っている。</li><li>・ 病棟に設置してある除細動器などは定期的なラウンドと年1回の定期点検を行っている。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li><li>・ 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっていきます。</li><li>・ 医薬品医療機器総合機構などより情報を収集</li><li>・ 収集した情報は療機器安全管理委員会名で教職員にメール配信</li></ul>	